2028

楽器による音楽文化の普及

Improving Music Through Instruments

AD35　山口悠樹
指導教員　谷上欣也

1. 研究目的

近年、スマートフォンやポータブル音楽再生機器の普及に伴いダウンロードや定額聞き放題サービスが広まり、音楽体験のあり方に変化が起きている。何万にも及ぶ曲をどこにでも持ち出せるという利点がある一方、違法ダウンロードや複製できるというデジタルデータの性質に対して「音楽の価値の低下」という考えがあるのも事実である。そこで今回の研究では単に「聞ければいい」だけの音楽体験を超え、より深く音楽を楽しむための道具を提案することを目的とした。

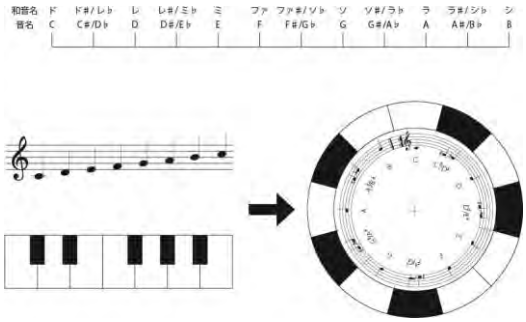
2. 調査内容

「音楽を奏でる楽しさ」は「音楽を聴く楽しさ」へ繋がり、より深く音楽を楽しむきっかけとなるツールとして「楽器」が有効であるのではないかと考えた。そこで、初心者と経験者両方の動向を把握するため、「大手楽器量販店の音楽教室の人気コース」、「既存の初心者向け楽器等の市場調査」、「育英祭来場者へのインタビュー」の3つの点から調査を行った。調査から楽器を挫折する要因としてコードや和音が理解できないというものが挙げられた。

3. コンセプトおよびアイディア展開

調査から、コード（和音）をよく用いる楽器であるピアノやギターの人気の高さに注目し、音階やコードなどの音楽知識の理解を促す「楽器練習を補助する道具」をコンセプトとした。

楽譜が得意ではない人の使用が想定されるため、五線譜や鍵盤に依存しない音階表示を用いて音階やコードの理解を簡単にする必要があった。そこで、全音・半音階あわせて全12音をサークル状に配置することによって、より単純に音階やコードを理解できるのではないかと考えた。



4. 最終提案

ピアノやギターの練習の際の使用を想定しているため、持ちやすさと視認性を重視したデザインとした。左手でグリップ部を持ち、親指でコードのベース音（基準の音）を押し、右手で構成音である残りの2音を鳴らす。またディスク部を回すことで、異なるベース音のコードを示すことができる。表示されている「メジャーコード」を基にユーザーが自らコードをつくりだすことが出来るため、楽器や音楽への理解をより深め、音楽を深く楽しむことができるのではないかと考えている。

5. 今後の発展

楽器初心者への検証は、本来中長期間に及ぶモニタリングを行い、楽器の習熟度やコードの理解度を図る必要がある。そこで、楽器経験者からの意見を伺った結果、「楽譜や鍵盤以外の表示で音楽への敷居の高さを下げることはできると思う」「楽譜を読めない人やコード自体の仕組みを理解できてない人に対しては有効だが、そうでない人に対してはあまり意義がないと思う」というものが挙げられた。これらの意見から、コードを理解しやすくして楽器を身近なものにし、より深く音楽を楽しむきっかけとして、この提案には意義があると言える。しかし、クリップで楽器本体に固定できる形状への改善や、スマートフォンアプリ化しより多くのコードに対応させるなど、より楽器（音楽）体験を豊かにする工夫を加えられる点はまだある。

文　献

[1] 島村楽器株式会社　音楽教室　人気コースランキング
http://shimamura.co.jp/lesson/ranking/